

2018年6月21日

横浜ゴム、掛川市の海岸防災林事業に苗木提供 「希望の森づくり 植樹祭」に参加

横浜ゴム（株）は、掛川市の海岸防災林強化事業「掛川モデル」の一環として、5月26日に同市の三俣地内で開催された「市民協働による希望の森づくり 潮騒の杜植樹祭」に、平塚市の社会福祉法人進和学園を通して苗木260本を提供した。同事業に苗木を提供するのは今年で4回目。植樹祭には地元自治体や掛川市民をはじめ、横浜ゴム従業員とその家族57名を含む企業・団体などから約620名が参加し、3,000本の苗木を植樹した。

横浜ゴムは2012年から海岸線を含む掛川市内各所で植樹活動を行う「希望の森づくり」の企業パートナーとなっており、掛川市に苗木を提供してきた。「掛川モデル」はこうした掛川市の活動実績をベースに2015年からスタート。南海トラフ巨大地震で予想される太平洋沿岸地域での津波被害を低減させるため、宮脇昭氏（横浜国立大学名誉教授）が提唱する森の防潮堤を海岸線およそ10キロメートルに約20年かけて築く事を目指している。横浜ゴムはこれまでに累計2,135本の苗木を提供している。

進和学園は、同学園を利用する知的障がいのある方々の作業として、どんぐりや木の実から苗木を育て植樹を行う「いのちの森づくり」プロジェクトを実施。この活動を通じて障がいのある方々の生きがいの追求と苗木の受注による自立支援に取り組んでいる。横浜ゴムは、同学園と2010年に「苗木の提供に関する覚書」を締結している。

横浜ゴムは2007年から創立100周年にあたる2017年までに国内外の生産・販売関連拠点で苗木50万本を植樹する「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトに取り組み、昨年9月、計画通りに達成した。



植樹祭に参加した従業員

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：岡
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570